

# 収穫後は「土づくり」をしましょう

## 1 稲わらの秋すき込み

- ・稲わらの秋すき込みは、堆肥と同等の土づくり効果が期待できます。
- ・腐熟の促進を図るため、地温の高い収穫後にできるだけ早く行い、遅くとも10月中旬までに完了しましょう。
- ・すき込みの耕深は、作業能率や腐熟促進等を考慮して、5～10cmの浅うちにしましょう。



## 2 堆肥や土づくり資材の散布

- ・近年、市内の水田土壌の分析結果では、ケイ酸や遊離酸化鉄が不足傾向です。
- ・以下の散布例を参考に土づくりに取り組みましょう。

散布例① リン酸・ケイ酸・苦土・鉄・腐植酸を含む総合的な土づくり  
魚沼ロマンアイアンスター: 60～80kg/10a

散布例② ケイ酸を中心にリン酸・苦土・加里・腐植酸を含む土づくり  
魚沼ロマンソイルキーパー: 40～60kg/10a

散布例③ ケイ酸を中心に加里・苦土・リン酸を含む土づくり  
越後の輝きソイル米スター: 30kg/10a

散布例④ 堆きゅう肥による土づくり  
有機堆肥「魚沼げんき」: 400～800kg/10a

- ・ほ場の土壌状態を確認するため、JAでは土壌分析を行っています(10月末まで受付け)。

## 新潟県からのお知らせ ～本年産米の放射性物質検査結果～

県では、本年産米の出荷に先立ち、玄米の放射性物質を検査しています。  
この度、魚沼市内の本年産米を検査した結果、放射性セシウムは検出されませんでした。  
今後、魚沼市産の米は、通常どおり出荷・販売できます。  
ご協力いただき、ありがとうございました。